



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・シリア：ゴラン高原での越境砲撃

シリアとイスラエルの間にある最大の紛争地域はゴラン高原である。他方、中東で最も平穏で安定している地域もゴラン高原である。シリア国内での戦闘は、そのゴラン高原にも波及した。

シリア側での戦闘の動きが、非武装地帯に波及したのは今年7月頃からで、迫撃砲弾が着弾するなどの事件が起きていた。11月になると、境界線付近のシリア側での戦闘が激化した模様で、11月3日には、シリア軍戦車が非武装地帯に侵入し、10日前後には、シリア側からの銃撃事件や迫撃砲弾が着弾するケースなどが続発した。そのためイスラエル軍は、11日から12日にかけて、シリア側に警告砲撃と報復砲撃を実施した。

14日にゴラン高原を視察したバラク国防相は、ゴラン高原の休戦ライン付近のシリア側での戦闘で、反体制派が境界線付近を占拠したと述べている。

評価

シリアもイスラエルも、ゴラン高原を不安定化させることを厳格に避けてきた。シリア内戦が激化してもシリア政府の立場に変化はないだろう。イスラエルも同様である。今後も境界線付近での戦闘の流れ弾がイスラエル側に着弾したり、イスラエル軍が、報復攻撃をする可能性があるが、単発的な事件で処理され、両国とも緊張のエスカレートは望まないだろう。

バッシャル・アサド政権が崩壊し、勢いに乗った反体制派がゴラン高原を超えてイスラエルを攻撃する可能性は低い。反体制派の中の過激勢力の一部が、休戦ラインを抜けてイスラエル軍を攻撃するかもしれないが、イスラエル軍は既存の部隊で対処できるだろう。今後、シリアに過激な新政権が成立して、ゴラン高原の奪回を図る可能性はゼロではないが、まずシリア軍を再建・再編成する必要がある。

(中島主席研究員)